

# 平成30年度 学校評価表

※達成度は、目標値に対する評価値の割合。(評価値/目標値)

※評価 A(目標達成):100≦ B(ほぼ達成):70≦, <100 C(できていない):<70

※学校関係者評価 A:達成できている B:概ね達成できている C:できていない

評価計画				自己評価					学校関係者評価				
評価項目	中期経営目標	短期経営目標	担当分掌	目標達成のための方策	評価指標	目標値(A)	資料	評価値(B) アンケートは1月 統計は2月	達成度(B/A)	評価	結果と課題の説明	評価	コメント
学習指導	学力の向上	望ましい学習習慣の形成	教務	①授業の始めと終わりの時間厳守とあいさつの徹底 ②学習規律の確立を目指した授業づくり	わたしは、授業に積極的に取り組んでいる。	90%	アンケート(生徒②)	89%	99%	B	①授業開始・終了時のあいさつ等について、商業部とも連携して、生徒・教職員が改めて共通認識を持って行うことができた。生徒への発問や声掛けなどを通して、生徒が今以上に積極的・主体的に授業に取り組む雰囲気作りを行ってきたい。 ②授業や検定試験に関する課題への生徒の取り組みは、さらに改善していく余地が残されている。適切な質・量の課題を与えること、それにきちんと取り組ませることにに向けた指導を、妥協なく行うこと等が教員側に求められる。 ③ICT整備事業により、各教室のICT環境が充実したこともあり、今年度の公開授業は「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業とICT活用を意識した授業にテーマを絞って実施した。ICT活用に関しては、昨年度よりかなり活用が進んでいる。教員の互いの授業公開、授業見学を活発化して、授業改革への取り組みを進めていきたい。 ④科目によっては、相当数の補習対象者が出る場合があった。補習の前に、日々の授業や個別指導等を大切にすることを、生徒と教員がともに認識しなければならない。	B	・アクティブラーニングの実現に向けた授業改善が一層望まれる。指導過程の見直しによる学習過程の質的向上や、教材や教具の開発・工夫、タブレット等のデジタル教材を使った授業改善等、積極的な取り組みは生徒の学習に対する意欲化が期待できる。 ・生徒も多様化している中、今以上に個に対応した指導が必要であり、個別指導の強化はもとよりTT(チームティーチング)や習熟度別学習等も今後積極的に導入していくことを考えていく必要がある。 ・昭和49年には進学クラスがあったが、今進学希望が多いならば、それを考えたほうがいいのか。 ・生徒減は悪いことばかりではなく、各生徒の個別の目標に沿った指導ができるということだとポジティブに捉えることもできる。 ・学外に対しての公開授業を行うと、松江商業高校の魅力につながるのではないかと。 ・学習環境が整わない生徒、ついていけない生徒を減らす配慮を願いたい。 ・ICT活用は、生徒もわかりやすく、先生も時間に余裕ができるようになれば、メリットも多いと思う。
				①適切な課題による家庭学習の習慣化	わたしは、授業で出される課題や、検定試験に向けた課題に、家庭できちんと取り組んでいる。	80%	アンケート(生徒③)	80%	100%	A			
					生徒に家庭での学習を促すよう、教科指導や課題を工夫した。	80%	アンケート(教員①)	73%	91%	B			
		①研究授業、公開授業等の実施 ②生徒による授業評価の実施 ③ICT環境の活用		先生は、わかりやすい授業や、生徒自身が考える授業づくりに努めている。	90%	アンケート(生徒⑩)	87%	97%	B				
	教員の指導力の向上		授業アンケート結果に基づき授業改善に取り組んだ。	90%	アンケート(教員②)	88%	98%	B					
			アクティブラーニングの導入や、ICT活用を意識した授業実践に取り組んだ。	90%	アンケート(教員④)	64%	71%	B					
教育環境の整備	生徒の学習を支援する体制の充実		①授業時間の確保 ②個別指導、補充授業の実施	曜日変更などによる授業時数の確保や、補習計画立案などの個に応じた指導は適切であった。	90%	アンケート(教員⑤)	77%	86%	B				
特色ある学校	商業教育の充実	資格取得の支援	商業	①検定補習、合宿の実施 ②検定ロードマップの作成	全商検定1級3種目以上取得率	40%	統計資料	34%	85%	B	⑤3年生が65人(194人中)、2年生が49人(200人中)で、学校としては全商1級3種目以上取得者が久しぶりに100人を超えた。しかし、2種目以上取得している3年生は109人だけに、少し残念な結果となった。現在2種目以上取得している2年生は91人なので、来年度は目標を達成したい。 ⑥肯定的な意見の生徒が多い。ビジネススマナーは修得を実感できる場面が多い生徒と少ない生徒の間で温度差があるように思われる。松商生はできて当たり前という地域の雰囲気もあり、お褒めの言葉をいただく機会は減っている。今後も指導を続けていきたい。	A	・「松商だんだんフェスタ」の取り組みはとても素晴らしい。生徒一人ひとりが自身の仕事をしっかり認知し、素敵な笑顔で接客する姿に松商の明るい未来を感じた。今後も新しい発想を導入しながら、ますます充実・発展していくことを期待する。 ・「松商だんだんフェスタ」や「学園祭」の協賛行事として「平塚運一版画展」を企画し、公開すれば県民の文化活動振興にもつながるのではないかと。 ・資格取得に向けた熱意ある指導が実を結んでいると思う。今後も個々の特性を生かしつつ、希望の進路実現に向けた計画的な指導をお願いしたい。 ・数年後、社会に出たときの基礎となるよう、ビジネススマナーには特に力を入れていただきたい。
		体験的学習の充実		①ビジネススマナー指導の充実 ②「松商だんだんフェスタ」の充実	ビジネススマナー指導は自分にとって役に立つ。	90%	アンケート(生徒⑫)	88%	98%	B			
				「松商だんだんフェスタ」は有意義である。	90%	アンケート(生徒⑧)	94%	104%	A				
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	望ましい生活習慣の育成	生徒	①身だしなみ指導の計画的実施 ②全教職員と生徒会による登校指導と適切な声かけ ③校外でのマナー(通学マナー)指導の充実 ④校外での挨拶の励行	毎日きちんと学校に登校する生徒の割合(出席率)	99%	統計資料	98.8%	99.8%	B	⑦生徒部教員による朝の登校指導(あいさつ、登校マナー)で、生徒の様子を観察しながら継続的に声かけを行った。生徒玄関前では、生徒会と教職員(当番制)によるあいさつ運動を行ったが、特に寒くなってから遅刻者が増えた。立ち振る舞いや身だしなみについても、計画的に指導を行い、成果は感じられる。一部気になる生徒もいたが、継続的に声かけを行った結果、きちんとできるようになってきた。引き続き生徒部と学年部で連携しながら全教員で取り組んでいく。 ⑧直接健康に関わる内科・心電図・眼科・尿検査についての結果報告は100%である。視力・歯科検診結果について報告者数が伸び悩んでいる。(156人/352人) 保護者との一層の連携が必要である。 ⑨学校全体としての清掃に対する取り組みはほぼ満足できる状況である。(教員アンケート結果では80%が概ねできていると回答) 今後は用具の使い方・掃除の手順等の具体的な知識・技能を深めることで、より効率的に実施できるよう指導したい。	A	・街で見る松商生は身だしなみに品格があり、全体的に落ち着いているように感じられる。 ・「あいさつ運動」の輪を広げ、地域全体が気持ちよい挨拶のできる明るい街になるよう、学校がリーダーシップをとっていくことも大切である。 ・健康にかかわることは、親が主体的にやる必要があると思う。 ・視力、歯科健診結果についての報告者数を向上させてほしい。 ・普段の学校生活や学園祭などへの積極的な取り組みと、進路実現への取り組みを、上手く両立させていってほしい。 ・生徒たちは他者との違いに日々気をつかいい心をすり減らしているように思う。保健室に勇気を出して助けを求めに来る生徒には、秘密厳守を約束し、安心して心を委ねさせてあげてほしい。保健室の温かい対応をお願いしたい。 ・校内のあいさつは、以前より少ない気がする。
					非遅刻率	99%	統計資料	99.7%	100.7%	A			
					わたしは、高校生らしい身だしなみを心掛けている。	90%	アンケート(生徒④)	99%	110%	A			
	健康管理・美化活動の推進	保健	①健康管理に関する適切な指導 ②教育相談、生徒支援の委員会(さわやか委員会等)の充実 ③清掃指導の徹底	各種検診結果に基づく再検査該当者のうち、受診した生徒の割合(受診結果報告書提出率)	80%	統計資料	44%	55%	C				
			わたしは、清掃活動に積極的に取り組んでいる。	95%	アンケート(生徒⑥)	95%	100%	A					

# 平成30年度 学校評価表

※達成度は、目標値に対する評価値の割合。(評価値/目標値)

※評価 A(目標達成):100≦ B(ほぼ達成):70≦, <100 C(できていない):<70

※学校関係者評価 A:達成できている B:概ね達成できている C:できていない

評価計画					自己評価					学校関係者評価			
評価項目	中期経営目標	短期経営目標	担当分掌	目標達成のための方策	評価指標	目標値(A)	資料	評価値(B)	達成度(B/A)	評価	結果と課題の説明	評価	コメント
								アンケートは1月統計は2月					
生徒指導	人権・同和教育の推進	人権・同和教育の体制作り	図書人権教育・生徒	①人権・同和教育に関するLHRの指導計画立案 ②道徳教育への積極的な取り組み ③生徒理解と信頼関係の確立 ④人権・同和教育に関する教職員研修の充実	学校では、面談などを通して生徒理解を行う努力がなされている。	90%	アンケート(生徒⑨)	90%	100%	A	⑩教職員に悩みを相談できる雰囲気があると答えた生徒が少ない。生徒から相談できる、信頼できる関係を築いていきたい。また、教職員にとって「当たり前」のことも、生徒にとっては「頑張っ て取り組んだ結果」であることも少なくない。生徒自身が自尊心を高められるよう生徒理解に努めていく。(生徒部) 人権・同和教育研究指定校として活動した一年間であった。次年度は研究完成年度として、引き続き充実した教職員研修を企画していく。(図書人権教育部)	A	・全教育活動を通して、生徒一人一人を多面的、総合的に理解していくことが大切である。生徒の良さを見出そうとする姿勢のもと、共感的理解を深め、生徒との信頼関係を一層構築していくことが強く望まれる。
					学校には、教職員に悩みなどを相談できる雰囲気がある。	70%	アンケート(生徒⑩)	57%	81%	B			
					人権同和教育に関する教職員研修は有益であった。	80%	アンケート(教員⑭)	98%	123%	A			
進路指導	進路希望の実現	進路の実現のための支援体制作り	進路指導	①一人ひとりに応じた進路指導(進学補習・小論指導・面接指導等) ②生徒および保護者への進路情報(進路の手引・進路だより・進路行事等)の提供と活用 ③ハローワーク、松江市との連携による求人開拓 ④企業訪問等によるミスマッチの回避	在学中に就職先を内定する生徒の割合(内定率)。	100%	統計資料	100%	100%	A	⑪就職は一般事務職を中心に100%の内定となった。進学はAO入試、推薦入試制度を利用して進学先を決定することができた。今後は、生徒が希望進路に向けて早めに具体的な準備ができるよう、2年次に進路検討会を開催し、就職・進学に備えていく。	A	・適切な進路指導に努めていただいております。高く評価したい。 ・更にきめ細かな進路指導を進めていくために、2年時より商業高校の特性を生かした進学コースのクラスを作り、普通教科を多くするなど今以上に手厚く進学指導にあたること、又現在の商業科3クラスを、生徒の進路希望や、社会の要請に基づいたコースを設定し学習させること等、今後検討していくことも必要ではないか。 ・企業の説明会を、工業高校や農林高校と一緒にメッセや体育館でやっていただきたい。 ・大学進学者に、卒業の際、しまね就職ナビへの登録を勧めることで、地元就職への架け橋を渡し、有為な人材の流出に歯止めをかけることが大切だと思う。
					在学中に進学先を決定する生徒の割合(合格率)。	100%	統計資料	98%	98%	B			
		望ましい勤労観・職業観の育成	①地元企業説明会の実施 ②進路座談会、進路講演会等の実施 ③進路の手引の活用 ④企業訪問の実施	学校から提供される進路情報は、自分の進路を考える上で役に立つ。	90%	アンケート(生徒⑩)	90%	100%	A	⑫卒業生を招いた就職・進学講演会や、「3年生の就職・進学合格体験を聞く会」は、例年以上に好評だった。3月には1・2年生対象で、地元企業48社を招いた説明会を開くなど、新しい取り組みもできたので、これを次年度につなげたい。			
特別活動	豊かな心の育成と情操の涵養	部活動の活性化	生徒	①各自の目標達成への支援 ②総体パワーアップ週間の実施	部活動加入状況	90%	統計資料	90%	100%	A	⑬他校に比べ部活動は盛んであり、部活動への強い参加意欲をもって入学する生徒も多い。部活動を通じて豊かな人間形成を図りながら、将来の進路に向けて自己実現が図れるよう支援していく。また、学習活動や資格取得に取り組む時間の確保等、進路保障も考えながら取り組んでいく必要がある。	B	・部活動の活性化は学校全体の活力に繋がる。教員の好指導により大きな成果を上げていることに心から感謝する。さらに一層の活躍を期待する。 ・本年度、スポーツや文化活動等を得意とする推薦入試の志願者が減少しており、今後の活動に影響しないか心配である。 ・働き方改革の一環として、部活動の在り方の見直しが進められている中で、限られた練習時間でより効果をあげていくためには、練習の質的向上が不可欠である。県内外の優秀な指導者を招請したり、複数の指導者体制を整備するなど、強く県に働きかけていくことが必要ではないか。 ・部活動に、OBやOGを活用するべきではないか。
		読書習慣の育成	図書人権教育	①読書センターとしての役割を果たす ②学習・情報センターとしての役割を果たす ③読書活動の推進	図書館には読みたい本や調べ物に適した本が揃っている。	60%	アンケート(生徒⑩)	62%	103%	A			
	他人を思いやる心、感動する心の育成	生徒会活動の活性化	生徒	①全校生徒、教職員が一体となった学校(生徒会)行事への取り組み ②各種委員会活動など生徒主体の活動の企画・実施	わたしは、クラスの委員や係、または生徒会の活動に積極的に取り組んでいる。	70%	アンケート(生徒⑤)	74%	106%	A			
信頼される学校	開かれた学校づくりの推進	保護者との連携の推進	総務	①保護者面談の実施 ②保護者への文書による情報提供の充実 ③PTA活動の充実・推進 ④ホームページの定期的更新、メールマガジンの発行 ⑤PTA会報の発行	学校は、文書・ホームページ・メールマガジン等を通じて適切に情報を提供している。	80%	アンケート(保護者⑤)	91%	114%	A	⑯ホームページを頻繁に更新し、学校行事は実施当日の様子を伝えるなど、迅速な情報提供に努めた。また、PTA会報を毎学期発行し、PTAの活動や学校の様子を詳細に伝えることが出来た。担任による生徒・保護者面談等も含め、学校と家庭の連携を一層強化していきたい。	A	・これからは、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携し実現させていくことが強く望まれている。これからは多くの生徒が校外に出て、ボランティア活動や地域の人々との幅広い交流など社会貢献や社会参加に関する活動を積極的に行っていくことが大切である。そのきっかけとして「ボランティア活動の日」を新設し、公民館等と連携しながら全校で町内の通学路の除草、清掃等を実施してみたらどうか。 ・もっと地域に出かけ社会貢献すべきである。それが本当の力になるのではないか。 ・避難・防災訓練のほかに、不審者対応訓練について、マニュアルに基づいたシミュレーション訓練も3年に1回程度は実施していく必要がある。 ・近年、SNSによる事件事故が多発している中で、その指導の充実に努めていく必要がある。 ・携帯電話、スマホの学校持込ルールの緩和が検討される話があるが、学校への持ち込みには責任の所在やルールについて、保護者とともに議論されることが必要だと思う。
		地域との連携の推進	生徒	①地域に貢献する活動への積極的な参加	わたしは、今年度、ボランティア活動に参加した。(部活動や生徒会単位の地域清掃などの活動も含む)	40%	アンケート(生徒⑩)	27%	68%	C			
	危機管理意識の向上	危機管理体制の確立	保健・生徒	①危機管理に対する校内研修の実施 ②環境整備の充実 ③情報モラル教育の推進	救急法の教職員研修は、有益であった。	80%	アンケート(教員⑭)	89%	111%	A	⑱高い評価を得ているので、今後も継続して取り組みたい。		
				③情報モラル教育の推進	情報モラルの教職員研修は十分行われた。	80%	アンケート(教員⑭)	83%	104%	A	⑲外部講師による全学年対象の情報モラル研修は、実例を踏まえた内容で成果があった。また、個人情報の取り扱いやネット中傷などの犯罪事例についても理解を深めることができた。		
					安全点検や清掃用具の点検・整備が行われ、環境整備が適切に行われた。	80%	アンケート(教員⑭)	91%	114%	A	⑳事務部の迅速な対応で概ね整備ができた。今後も保健部と事務部で連携した取り組みを進めていきたい。		